

能力をコンピュータで発揮する時代

情報科 氏名 鵜澤 裕

1 「情報」って何??

教科「情報」は、平成15年度に誕生した新しい教科です。高校生の保護者の時代には存在しなかった教科ゆえに、保護者の方々は「へ〜。時代が変わったのね。私たちの時にもそんなのがあれば良かったのに。」などと口々におっしゃいます。このことから解るように、「情報」とは時代の必然性によってもたらされた産物でもあるのです。

そんな「情報」には3つの顔があります。まず情報A。これはテーマパークを1日でまわるガイドみたいなもので全体像の概略を俯瞰します。次は情報B。ここからは少し各論に入って、二分論的に言えばいわゆる「理系」に該当します。コンピュータのハードウェアの分野について多く学びます。更に情報C。これは「文系」。コンピュータを使う上でのお約束（著作権やメディアリテラシーなど）を多く勉強します。基本的に、どれも難易度に差は無く、総論と各論といった領域の違いがあるだけです。

2 「私はコンピュータを使うのは得意だよ〜ラッキー(^_^♪) …ってホント??

4月の年度当初に授業を始めるときに、生徒から決まって言われることがあります。それは、「情報ってコンピュータを使う授業でしょ。私は得意だから良かった。」です。果たして、それは本当でしょうか?おそらくインターネットの操作や携帯の操作と同一視していることからくる発言でしょう。生徒が言っていることも、一部分は正解です。でも、言ってみれば、樹を見て森を見ない、富士山の5合目までバスで登って富士登山をしたような気分になっているようなものです。

インターネットだけ使えればいいのでしょうか?それは余りにもコンピュータに対して失礼というものです。では、なぜ「情報」の教科が必要とされたのでしょうか。次に、私の知人の例を挙げてみますので、一緒に考えてみましょう。

3 知人Aの事例

10年ほど前の話になりますが、私の知人であるA氏は当時40代後半。得意の英語を武器に大使館勤務を経て、一部上場企業の商社に転職したという華麗なる職歴の持ち主でした。彼の仕事のスタイルはバリッと着こなしたスーツに身を固め、アタッシュ・ケースを片手に海外を飛び回るもので、ドラマに登場しそうな“一流商社マン”といってもおかしくない風情の男性でした。そして、主任だった彼の将来の夢といえば、あこがれの部長(管理職)。部長めざして毎日、自分のスタイルを変えずに仕事に取り組んでいました。

さて、当時は今と違って個人のデスクにもれなく1台ずつコンピュータが置かれている時代ではなく、主に事務職担当のアシスタントが端末を操作する…といった限られた人間のみがコンピュータを使う時代でしたので、彼も当たり前のように書類作成・メール作成をアシスタントに依頼して済ませていました。

時代は進み、業務のスピード化の波に乗り、とうとう会社に1人1台のコンピュータが与えられる日がやってきました。もちろん、主任の彼の机上にも新品のコンピュータが置かれました。その日を境に、彼が自分で文書作成ソフトを使って書類を作成し、プリントアウトまで行わなければならなくなりました。彼は、英語は堪能でしたが、コンピュータ

を使うとなるとまるで素人でした。今まで1分で終えていたことが10分、20分と時間がかかってしまう有様。時間を短縮するためのアイテムであるはずのものが、自分の足を引っ張ってしまったのです。彼は焦りました、そして私に「どうしたら操作を覚えられるのだろう？」と相談してきました。自分の今までの経験を振り返ってみても、操作を学ぶ目的でスクールに通ったことはありません。廻りの仲間にその場で聞いて回ったり、図書館でマニュアル本を読んだりして覚えてきたのです。そのことを伝えると、彼はその後、アシスタントの若い女性に操作上の質問をたくさんしたそうです。

当初、対応していた女性も余りにも何度も同じことを聞かれることから、面倒になり、最後には、不機嫌に無視される事態に陥ってしまったのです。操作が出来ない→書類が出来ない→仕事がたまるという悪循環の始まりでした。「自分は上司の立場であり、部下を教える立場のはず…」と落ち込み、とうとうノイローゼになってしまったのです。通院治療が開始されたとはいっても、原因がコンピュータのスキルにあることから、根本的な完治には至りません。一方、肝心のスキルの方は、時間が取れずにスクールにも通えない始末。

結局、コンピュータを使わない部署（しかも子会社）への異動となりました。スーツで管理職、どころか作業服での肉体労働が彼に与えられた現実でした。良い仕事、良くない仕事ということではなく、自分の理想に進めなくなってしまいました。

4 たかがコンピュータ・スキル、されど…

彼は仕事のできる商社マンでしたが、たったひとつコンピュータ操作ができなかったために廻りともコミュニケーションが取れなくなり、夢をあきらめざるを得なくなったのです。何も、コンピュータのエキスパートになれといっているわけではありません。自分を売り込むために、武器として徹底的に使い回せ！コンピュータに使われるな！ということをお願いだけなのです。

5 授業での思い！

長くなりましたが、私がいつも思うことに、

①優れた文章の表現力を持っていても、文書作成ソフトが使えないと相手に伝達しにくい。

（文書作成ソフト：Word、一太郎など）

②計算能力に優れていても、表計算ソフトが使えないと、仕事が円滑に進行しにくい。

（表計算ソフト：Excel、三四郎、Lotus1-2-3など）

③説明や説得が上手でも、プレゼンテーションソフトが使えないと、説得力に欠ける

（プレゼンテーションソフト：PowerPoint）。

ということがあげられます。

上記の例からも、コンピュータを通して、自分の能力・才能を発揮する時代が到来したと思います。『みなさんが卒業して、それぞれの場所でコンピュータを使って作業しなければならない時、A氏のように操作に苦労しないで、その教科や仕事に集中できるようになって欲しい。』というのが、私の授業で思いをよせている一番のことです。

どうか、私の授業では「将来困らないように」という気持ちを強く持って、私からの課題に取り組んで欲しいと思います。最後に、コンピュータはそもそも、人間を楽にするための道具に過ぎないものであるということです。そのことを忘れずに、「習うより、慣れる。」の精神を頭にもっていれば、きっとコンピュータはあなたにとって最高の相棒となってくれるはずです。これから一緒に楽しくスキルを身に付けて行きましょう。